

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり(3年次)**～子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～****外国語科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について**

小学校外国語科(以下、外国語活動も含む)では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、聞くこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指している。外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」と小学校学習指導要領(平成29年告示)解説に示されている。子どもがこのような見方・考え方を働かせてコミュニケーションをする過程を通して、「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について述べる。

子どもは、体験的に外国語の言葉や表現に慣れ親しみ、コミュニケーションをする中で、まず、相手の話していることを受け止め、何を言おうとしているのかを理解しようとする。そして、「自分のことを伝えるにはどの言葉や表現を使えばいいかな」と自分のことや思いに合う内容を考えていく。その中で相手意識をもち始め、「よりよく伝えるにはどんなことに気をつけたらよいのだろう」と、ジェスチャーや表情、リアクションなどの非言語によるコミュニケーションの手段も用いて伝え方を工夫しようとする。その際、よりよいコミュニケーションをしている友だちを学習のモデルとして見ることで、友だちたちとつながりながら自分がコミュニケーションをする姿を客観的にふり返り、友だちのコミュニケーションのよさを取り入れ、表現の高まりを目指そうと工夫していく。さらに、コミュニケーションをする中で、「どうして～なのかな?」「もっと知りたいな」という思いが生まれ、リアクションを交えながら感想を伝えたり、さらに質問をして会話を続けようとしたりし始める。このように、子どもは主体的に友だちや学習内容とつながり、以前の自分と今の自分を比較することで自分の変容に気づいていく。そのような過程を通して、知的な深まりが生まれ、コミュニケーションをする楽しさやよさを実感していくのである。

このことから、外国語科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは、友だちと気づきや考えを共有しながら、問題解決に向けたよりよい方法を見出し、それをを用いて互いに表現し合う中で、変容した自分を自覚して達成感を味わい、外国語でコミュニケーションすることを楽しんでいる授業であると考えられる。

1. 子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ**めあてに対して具体的なイメージをもたせ、共通認識を図る**

めあてに対して具体的なイメージをもたせ、共通認識を図ることで、子どもの課題解決の意欲を高めるだけでなく、子どもが自分の考えをもちやすい状況をつくることができるようになる。

本時においては、「グッジョブカードをつくるために、気持ちよく買い物しよう!」というめあてを設定する。ここで子どもには、「気持ちよく」とはどのようなことなのかを考えさせていく。そこで、日常生活で買い物をする時、どのように言えば気持ちよく買い物ができるのかを子どもに問いかける。子どもからは、「ゆっくりはっきりした声で話す」「相手の目を見て言う」「ありがとうを言う」などの意見が出されると考えられる。このように、めあての「気持ちよく」とはどのような姿になるのか、友だちの意見から具体的なイメージをもたせ、子どもの共通認識を図る。そうすることで、子どもはめあての「気持ちよく」

よく買い物をしよう」という課題に対して解決しようとする意欲が出てくる。ただ、ここで終わらせてしまうと、自分が何を課題として解決していけばよいかははっきりしていない状況となってしまう。そのため、全体で共有した具体的なイメージから、何を課題とするのか自分の考えをもたせなければならない。そこで、子どもがこれまでの活動を振り返りながら自分の足りないところを考え、自分自身で課題として取り組んでいきたいものを選ばせる場を設定する。そうすることで、子どもが自ら課題を解決しようとする意欲が高まると考える。

2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするための働きかけ

(1) 目的意識をもたせた「見る人」を設定し、「価値」を共有する

子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようにするためには、友だちとのやり取りを「気持ちよく」できているのか目的意識をもって見る必要がある。ただ、お互いに表現し合う中で、目的意識をもちながらやり取りをすることは難しい。そこで、友だちのやり取りを「見る人」を設定し、友だちの表現に「価値」を見出させ、それを全体で共有させる。そうすることで、これまでの教師からの価値づけではなく、子どもからの価値づけとしていく。

本時においては、買い手と売り手の二人のやり取りを見て、子どもが友だちの表現に「価値」を見出していく。教師は、Activity1 でやり取りをする中で、見ている子どもに「(黒板に出ている意見を指さしながら) どのポイントができてる?」「どんなところが気持ちよくできてるかな?」と声掛けを行っていく。そして友だちの表現に「価値」を見出している子どもには、「よく見つけたね!」「そんなところに気付いたなんてすごい!」と称賛していく。そうすることで、友だちの表現に「価値」を見出すことの良さを伝えていく。そして、「見ていて気持ちよく買い物できているなど思った人はいる?」と問いかけ、Activity1 で友だちのやり取りの中で見つけた「価値(気持ちよさ)」を全体で共有していく。さらに、理由を聞くことで相手意識を強めていく。ここでは、「お互いに目を見て言えていたからよかった」「どの形がいいか指を指しながら伝えていた」など、最初のめあてで確認した具体的なイメージに加え、よりよい姿の意見がでてくるようにしていきたい。さらに、共有したことをもとに「どれならできそう?」と尋ね、更に本時のねらいに迫るように目指していく。そして Activity2 でもう一度やり取りをさせ、より「気持ちよく」買い物ができるようにしていく。

(2) もう一度やってみる場を設定し、友だちの「価値」を自分のものにできる場をつくる

Activity1 でのやり取りから、友だちの表現に「価値」を見出し共有させた後、Activity2 でもう一度やってみる場を設定する。その中で、全体で共有した「価値」を意識しながらやり取りができているかどうかをもう一度「見る人」に見つけさせる。そうすることで、子どもは共有した「価値」にさらに価値を見出し、真似をすることで、自分のものにできる場となり、自己の変容を気付くことができるようにしていく。

本時においては、Activity2 でもう一度やり取りをさせ、全体で共有した友だちの「価値」を自分のものにしていく。ここでは、共有した友だちの気持ちよく買い物する姿を真似している子どもがいるかどうかを見取っていく。「見る人」には「どこか最初と変わったところある?」「(共有したことを指さして) どれかできるようになってるかな?」と問いかけたりすることで、友だちのやり取りからさらによくなったところを見つけさせるようにする。ここでの変化は、友だちの見出した「価値」に、さらに子どもが「価値」を見出すことで、真似をするという変化が見られると考えられる。最後の振り返りの際に、見ている子どもから、評価をもらうことで自己の変容に気づき、友だちの「価値」を自分のものにできたという達成感を味わうことができ、外国語でコミュニケーションをする楽しさを実感できるようにしていきたい。

第3学年C組 外国語活動学習指導案

(3C教室)

指導者 HRT 博田れな

ALT 藤本ヴェロニカ

1. 単元名 This is for you. カードをおくろう (Let's try1 Unit 7)

2. 指導観

本単元では、友だちの良さを伝える「グッジョブカード」をつくるために、身近な事柄として「買い物」を題材として設定し、買い物をする際に必要な表現「What do you want?」を使って、欲しいものを尋ねたり要求したりしていく。その中で相手意識をもたせるため、友だちの好きな色や形を尋ね合い、お互いの好みに合うようにカードを仕上げ、児童の関係をよりよく構築することができる単元である。これらの活動を通して、第4学年の「What do you want?」の学習につながるようにしていく。

本学級の児童は、第3学年の「I like blue.」で飲食物や動物のなどの言い方や、What～ do you like? を使って好きなものの言い方を学習している。それらの学習の中で、自分のことや相手のことについて基本的な表現を用いて、質問をしたり質問に答えたりしてきている。また、友だちの好きなものをリサーチする活動では、相手の目を見て話すことや、ゆっくり聞き取りやすく答えることの良さに気付き、意識して取り組もうとする児童も見られていた。一方で、友達とのやり取りを早く進めたい気持ちから、相手の目を見ずに会話をしたり、挨拶ができなかったり、機械的なやり取りとなっている様子が見受けられる。また間違えたくないという気持ちから、単語でのやり取りになってしまっている児童もいる。本単元では、何度もチャンツを歌ったり、やり取りをしたりして、児童が感じる様々なコミュニケーションの素地となる要素を意識させ、第4学年につなげられるようにしていきたい。

単元の指導にあたっては、友だちの良さを伝える「グッジョブカード」をつくるという単元の見通しをもたせ、色や形の言い方について学習していく。色や形の言い方に慣れ親しんだ後、友だちのためのグッジョブカードをつくるために、好きな色や形を尋ね合う。その後、欲しいものを買い物できるように、買い物の仕方に慣れ親しんでいく。そして、友だちのために買い物をし、友だちの好きな形を使ってどのようなグッジョブカードにするか考えながらカードを仕上げ、友だちにつくった「グッジョブカード」を紹介する。

本時では、友だちの良さを伝える「グッジョブカード」をつくるために、友だちの好きな形を買い物する時間である。まず、これまでに学習した形の言い方や買い物のやり取りを振り返った後、「グッジョブカードをつくるために、気持ちよく買い物をしよう。」というめあてを提示する。その後、気持ちよく買い物をするとはどういうことかを日常生活から考えさせ、「気持ちよく」という具体的なイメージを持たせる。児童からは、「ゆっくりはっきりした声で話す」「目を見て話す」「ありがとうと言う」などを挙げると考えられる。児童から出された具体的なイメージから、自分が取り組みそうなポイントを選ばせ、気持ちよく買い物をしていくことを伝える。次に Activity1 で、班の中で2人は買い手と売り手に分かれ、残りの2人は「見る人」になり、友だちの好きな形を買いに行く。買い手や売り手のやり取りの中で、「見る人」が気持ちよく買い物できているか見て、価値を見出させていく。ここで教師は、「(黒板に出ている意見を指さしながら)どのポイントができてる?」「どんなところが気持ちよくできてるかな?」と声掛けを行っていく。そして、友だちの表現に「価値」を見出している子どもには、「よく見つけたね!」「そんなところに気付いたなんてすごい!」と称賛していく。そうすることで、友だちの表現に「価値」を見出すことの良さを伝えていく。その後、全体でいいなと思った友だちの姿やどうしてそう思ったのかを尋ねていく。また、そのやり取りを見せることで、自分のやり取りの仕方について再考できるようにした

い。そして、全体で共有したものから「これならできそう！」と思うものを選ばせることで、友だちが見出した価値に対して「やってみたい」「真似してみたい」という意欲をもたせていく。Activity2ではもう一度買い物をし、Activity1よりもより「気持ちよく」を意識した買い物をしていく。ここでも、よりよく買い物しようとしている姿を見ている児童に見つけさせていく。そうすることで、友だちの変化に気付かせ、さらに友だちの表現に「価値」を見出させる。最後に、本時の振り返りをさせる。Activity1とActivity2の活動を班で振り返り、できるようになったことや意識して取り組んだことなどを具体的に記述させる。そうすることで、自己学びの変容を自覚させるようにしていきたい。

3. 単元の見込み

学級の友達の良さを伝える「グッジョブカード」をつくるために、色や形などの身の回りのものについての表現に慣れ親しみ、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。

4. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 〔やりとり〕	色や形など、身の回りのものについて、What do you want?や～, please. などを用いて欲しいものを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。	学級の友達の良さを伝える「グッジョブカード」をつくるために、相手に伝わるように工夫しながら、色や形など、身の回りのものについて欲しいものを尋ねたり、答えたりして伝え合っている。	学級の友達の良さを伝える「グッジョブカード」をつくるために、相手に伝わるように工夫しながら、色や形など、身の回りのものについて、欲しいものを尋ねたり答えたり、紹介したりして伝え合おうとしている。

5. 指導と評価計画（全5時間）

時数	○ねらい ・主な学習内容	評価			
		知	思	主	・評価規準（評価方法）
1	○What do you want? や色や形の言い方に慣れ親しむ。 ・誌面の中から色々な色や形を見つけながら言い方に慣れ、「グッジョブカード」への活動に見通しをもつ。	○			・What do you want? や色や形の言い方に慣れ親しんでいる。 (行動観察・ワークシート)
2	○「グッジョブカード」をつくるために、色や形、What do you want?や～, please. などを用いて、友だちに好きなものや欲しいものを尋ねたり答えたりする。 ・友だちの好きなグッジョブカードをつくるために、色や形の言い方を用いて、好きなものを尋ねたり答えたりする。		○		・「グッジョブカード」をつくるために、友だちに好きなものや欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。 (行動観察・ワークシート)

3 (本時)	○「グッジョブカード」をつくるために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり、答えたりして伝え合っている。 ・友だちの好きなグッジョブカードをつくるために、What do you want?や～, please.などを用いて、買い物をする。	○	・「グッジョブカード」をつくるために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり、答えたりして伝え合っている。 (行動観察・振り返りシート)
4	○友だちの好きな色を尋ねたり答えたりしながら、友だちのためにグッジョブカードをつくる。 ・友だちの好きな形や好きな色を使って「グッジョブカード」をつくる。	○	・友だちの好きな色を尋ねたり答えたりしながら、友だちのためにグッジョブカードをつくる。 (カード・ワークシート)
5	○「グッジョブカード」をつくって、友だちに紹介する。 ・友だちのためにつくった「グッジョブカード」を友だちに紹介する。	○	・「グッジョブカード」を相手に伝わるように工夫しながら、紹介し合おうとしている。 (行動観察・ワークシート)

6. 本時の指導について

- (1) 目 標 「グッジョブカード」をつくるために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。
- (2) 評価規準 思(話・や) 「グッジョブカード」をつくるために、お互いに気持ちよく欲しいものを尋ねたり、答えたりして伝え合っている。
- (3) 展 開 (3/5)

○学習活動 ・児童の反応	・教師の働きかけ □評価規準(評価方法)	
	HRT	ALT
1. Greeting ○挨拶をする。	・ALT や子どもと挨拶をし、学習の雰囲気づくりをする。	・天気、月、曜日の確認をさせる。
2. Warm-up ○チャンツを歌う。	・リズムよく歌えるように、ジェスチャーで形を表しながら雰囲気をつくる。	
3. Review ○形の言い方を振り返る。 ○買い物の仕方を振り返る。	・形の言い方を振り返らせる。 ・買い物の言い方の振り返ることで、再度確認したいことがないか児童に尋ねる。	・形の言い方をふり返らせる。 ・買い物の仕方再度正しい発音を聞かせる。
4. Today's goal <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「グッジョブカード」をつくるために、買い物をしよう!</div> ○めあての「気持ちよく」とは何かを考える。 ・相手にありがとう言ったらいい。 ・笑顔で言うといい。 ・相手の目を見たほうがいい。 ・ゆっくり話すといい。	気持ちよく ・日常生活でお互いが気持ちよく買い物をするためには、どんな姿がいいのか考えさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">H: Hello. A: Hello. What do you want? H: A heart, please. A: Ok. Here you are. H: Thank you A: What do you want? H: A circle, please. A: Ok. Here you are. H: Thank you. See you. A: See you.</div>

<p>○やり取りのポイントをおさえる。</p> <p>○どのポイントに取り組むか決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、相手の目を見ることや、ゆっくりはっきり話すことで気持ちのいいやり取りになることの課題解決の意欲がもてるようにする。 ・どのポイントに取り組むかを決めさせることで児童に課題意識を持たせ、解決意欲をもたせる。 	
<p>5. Activity1</p> <p>○買い物の仕方の説明をする。 班の中で1が買い手,2が売り手となって3・4は「見る人」となり、買い物をする。</p> <p>○買い物をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い手・売り手・見る人(2人)の3つの役割を持たせ、活動を行わせることで、友だちの表現に価値を見出しやすくする。 ・「見る人」になった場合、見る観点を明らかにさせておく。 <p>○見ている児童に「どんなところが気持ちよくできているかな?」と問いかけ、友だちの表現に価値を見出させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている児童に声掛けを行い、スムーズにやりとりができるように支援を行う。 <p>○気持ちよく買い物をしようとしている児童を見取り、見ている児童に声掛けを行う。</p>
<p>6. 中間交流</p> <p>○見つけた価値を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに目を見て言っていたからよかった。 ・お互いが笑顔になるからいい。 ・どの形がいいか指を指しながら伝えていたからよかった。 ・買い手に分かりやすいからいい。 <p>○共有した価値の中で、できそうなものを選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いいなと思った友だちの姿やどうしてそう思ったのかを尋ね、そのやり取りを見せることで、自分のやり取りの仕方について再考できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・共有した価値からできそうなものを選ぶことで、友だちが見出した価値を自分のものにしようとする意欲をもたせる。 	
<p>7. Activity2</p> <p>○Activity1と同様の順で買い物をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見ている児童に「変わったところある?」と尋ねることで、友だちの表現にさらに「価値」を見出させる。 <p>思(話・発)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グッジョブカード」をつくるために、お互いに気持ちよく欲しいものを尋ねたり、答えたりして伝え合っている。 <p>(行動観察、振り返りシート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよくしようと工夫しようとしている児童がいるかを見取る。
<p>8. Reflection</p> <p>○班でやり取りについて振り返り、自分の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのやり取りを聞いて感じたことを班で共有し振り返ることで、自己の変容に気付くようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童全体を見て、変化を見取り、全体に共有する。

板書計画

気持ちよく

「グッズオブカード」をつくるために、買い物をしよう！

気持ちのいい買い物は？

- 相手にありがとう言う。
- 笑顔で言う。
- 相手の目を見る。
- ゆっくり話す。

友だちのよかったところ

- おたがいに目を見て言えていた。
→おたがいがえ顔になる！
- どの形がいいか指を指しながら伝えていた。
→伝わりやすい！
- 指で数を表していた。
→分かりやすい！

oval

star

rectangle

square

circle

triangle

diamond

heart

What do you want?

A ~ , please.